都立光丘 高等学校 令和７年度（１学年用）教科　　芸術　　科目　　書道Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　6 組

使用教科書：（ 書道Ⅰ（光村図書）　ペン習字の基礎（教育図書）　　）

教科　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】書道3分野と臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。漢字・仮名の古典を学習する。

【思考力、判断力、表現力等】古典に基づく基本的な用筆・運筆、字形、構成などを生かした表現を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書を愛好する心情を養う。

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①各書体における基本用筆を習得している。 ②古典の書体や書風と用筆運筆について理解	古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質	古典の価値とその根拠について考え、書のよさ

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	自分の書道道具を確認し、配置や取り扱い方、保管の決まり事、各道具の使用方法を今一度確認する。	・自分の書道用具の確認 ・一年間の授業の流れを、教科書に従って大まかに理解する ・各書道道具の取り扱い方を今一度確認する ・書道室の使用方法の説明	○				行動観察	○		○	4
	唐の四大家の代表作品を題材に、自分がもともと持っている線質や書風・好みの傾向を知り、漢字楷書に様々な作品があることを理解し、興味を持たせる。	・教科書により、唐の四大家の代表作を比較し特徴を見つけ、鑑賞する ・半紙に縦横画、転折画などを書き、自分の筆法の傾向を確認する		○		○	行動観察	○	○	○	4
	初唐三大家の楷書作品を教科書を用いて拡大臨書し、楷書臨書技術の向上を図る	・「孔子廟堂碑」・「九成宮醴泉銘」・「雁塔聖教序」を臨書する ・各書家の筆遣いの特徴をつかんで、楷書にいろいろな書風があることを臨書しながら体感する		○			行動観察　作品制作	○	○	○	12
	初唐三大家以外の楷書作品を、顔真卿作品を中心に紹介し鑑賞する。唐時代の楷書の知識をまとめる。	・顔真卿の作品紹介と鑑賞 ・摩崖の書の紹介、方勢と円勢の趣の違いなどを作品を通じて理解する		○		○	行動観察	○		○	4
2学期	漢字五書体のうち、「行書」に関して鑑賞・学習する。日中両国の代表的な行書古典作品を教科書を用いて拡大臨書し、行書臨書技術の向上を図る	・書聖　王羲之「蘭亭序」の鑑賞と拡大臨書　・日本の高僧　空海「風信帖」の鑑賞と拡大臨書		○		○	行動観察　作品制作	○	○	○	10
	漢字五書体のうち、「草書」に関して学習する。中国隋時代の智永「真草千字文」鑑賞・臨書学習により、草書臨書技術の向上を図る。	・智永「真草千字文」の歴史的価値をしり、楷書とそれに対応する草書の文字を書き比べながら、草書体を身近に感じ興味を深める。		○		○	行動観察　作品制作	○	○	○	8
	漢字五書体のうち、「隷書」に関して学習する。後漢時代の「曹全碑」鑑賞・臨書学習により、隷書臨書技術の向上を図る。	・隷書特有の筆法を理解したうえ、繰り返し学習し体得する。　・「曹全碑」の歴史的価値や書風を理解したうえで、鑑賞し拡大臨書する。		○		○	行動観察　作品制作	○	○	○	7
	3学期からの篆書体の学習・落款印制作実習に先がけて篆書篆刻辞典で、自分の名前を調べ確認する。	・篆書篆刻辞典により、自分の名前の字体を確認する。		○			行動観察	○			1
3学期	漢字五書体のうち、「篆書」に関して学習する。篆書臨書技術の向上を図り、落款印制作を楽しむ。	・篆書特有の筆法を理解したうえで、繰り返し学習し体得する。 ・2学期末に調べた自分の名前を半紙に篆書の筆法で書く。　・1センチ角・2，5センチ角印材に刻字する。		○			行動観察　作品制作（落款印制作）	○	○	○	9
	日本での書文化の発展の歴史を理解し、仮名の古典を学習する。古典に基づく基本的な用筆・運筆を理解し、繰り返し練習し体得できるよう努める。	・仮名小筆の取り扱い方を学ぶ。 ・運筆の反復学習。　・平仮名・変体仮名単体の臨書学習　・仮名連綿の理解と古典を用いての臨書実習。　・「蓬莱切」の臨書学習			○	○	行動観察	○	○	○	11
										合計	70